



日本共産党葉山町議会議員団
葉山町堀内2100-124
町議会議員 **くぼたみき**
電話/Fax 854-9356



http://www.jcp-hayama.com/
町議会議員 **近藤昇一**
電話 875-9619 Fax 876-3235

クリーンセンター再整備工事15億8,400万円で可決 2024年度より逗子市と共同で生ごみ資源化を 上山口地区で生ごみ分別収集の実証実験を実施

現在、葉山町の可燃ごみは逗子市で処理されていますが、焼却炉の延命策として生ごみの分別処理が検討され、葉山町で堆肥化処理も含めた、町のクリーンセンターを再整備することになりました。

これに先立ち、上山口で生ごみ分別収集の実証実験が行われ、住民からは収集回数や紙おむつの処理など様々な意見が寄せられました。

収集回数を増やすことで経費の増大が見込まれることから「キエーロ」などの生ごみ処理機等の更なる普及策で経費増を抑えるよう求めました。



再整備工事完成予想図

総額212億円の新年度予算 可決

日本共産党 ●一般会計●国民健康保険特別会計●介護保険特別会計●下水道事業会計の各予算に賛成
●後期高齢者医療特別会計予算に反対

一般会計は、前年度比10.5%の伸びで県下市町村で最も大きな伸びとなっていますが、クリーンセンター再整備事業の初年度となる4億8千万円が大きく占めています。

一般会計では、指摘されるべき点は多々あるものの、●妊婦健康診査の多胎児妊婦への補助回数の拡充●産後ケアの拡充●幼稚園類似施設利用料補助●葉山中学校トイレ改修工事●がけ地防災対策工事費等補助金の新設●住宅耐震推進事業の拡充●住宅リフォーム助成制度の予算増額●消防分団員の報酬と出勤手当の増額などの積極面は評価しました。

国民健康保険特別会計は、国保料の値上げを抑制するため一般会計からの繰り入れを、これまでの7,000万円から1億円に増額したことは評価するものです。

後期高齢者医療特別会計は、高齢者のみの医療保険に囲い込んで負担増と差別を押しつけ、2008年の制度導入から、すでに6回にわたる保険料の値上げがされました。

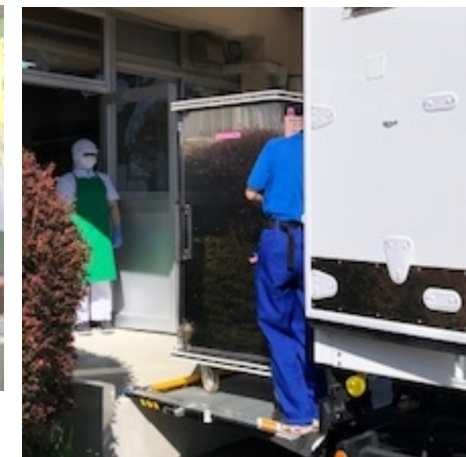
また、今年の10月から、75歳以上の窓口負担の2倍化が実施されることもあり、賛成できませんでした。

日本共産党提案の「中学校給食の早期実施を求める決議」を受け 2023年4月から中学校給食開始へ

コロナ禍の影響で学校給食センター建設を延期し、中学校給食実施の「サウンディング型市場調査」を経て、上山口小学校を親校とした親子方式での中学校給食提供が民間に委託運営で決定されました。約170食分を調理している上山口小分と中学2校分合せて1000食以上の調理は上山口小給食調理室で、増築は行なわず器具の入れ替えだけの調理となり、労働環境や食に対する安全等、不安が残ります。

また、1番最初のセンター候補地だった上山口小学校。配送車の出入りが増え通学路に対する不安が払拭できないとして候補地から外れた経緯があります。配送台数は減ったとはいえ通学路・生活道路の安全確保は重要です。

給食センター建設までの暫定措置としながらも、最低でも5年間実施を想定。今後の給食センター建設地の安全性、建設そのものの必要性も含め、今後も注視していきます。



愛川町の親子方式中学校給食の食缶による配食の様子

ロシアによるウクライナ侵攻を非難する決議

2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を行いました。日本共産党は直ちに待寺真司議長に「ロシア非難決議」を提案するように申し入れ、3月14日に土佐洋子副議長提案で「ロシアによるウクライナ侵攻を非難する決議」が12人の署名とともに提案され、署名をしなかった議員も含めて全員の賛成で決議しました。

決議では「昭和58年に『非核平和都市宣言に関する決議』を行い、核兵器の廃絶

と悲慘な戦争や紛争のない平和な世界の実現を町民とともに希求してきた」葉山町議会としては「ロシアによるウクライナへの原子力施設等の攻撃や主権侵害、核兵器の使用を示唆する発言に対し、厳しく非難し」「即時の攻撃停止と完全撤退を強く求める」とし、政府に対しては「国際社会と連帯し、制裁措置を含む迅速かつ厳格な対応を」強く求めました。

日本共産党へ、町政に対するご意見をお寄せください

次回定例会は6月2日（木）から始まります

窪田美樹議員の議会質問

高齢者タクシー券補助を

外出支援策に、京急ふれあいパス購入時に3,000円を年2回まで補助、更に免許証返納者には1回だけ3,000円が上乗せがあります。

ふれあいパスを17,600円で購入(補助後半年分)してもそれほど外出はしない方、バス停までが遠い方、山坂が多い方などバス利用をされない方の生活スタイルに合わせ、ふれあいパス購入費補助額と同等なタクシー券補助を選択制で実施し、バスを利用しない方へも支援が届くよう提案しました。『課題として十分認識している』との答弁に早急な対応を求めました。

加齢性難聴の補聴器購入助成を

高齢化による難聴は、70代では約半数の方が該当する大変身近な問題です。『障害者手帳を取得すれば助成が受けられる』と町は説明しますが、高度難聴(40センチ離れた会話が聞き取れない)でなければ取得できません。

全国的に市町村の取り組みがすすみ、相模原市は補聴器購入助成を始めます。日常生活を送る上で、軽度(ささやく声)・中等度(日常会話が聞き取り辛い)の難聴時から補聴器を利用することで、社会参加の促進や認知症予防にも繋がります。葉山町でも、日常生活に必要とされる方に高額となる補聴器購入の負担軽減を求めました。

通学路の安全確保

安全対策として「児童への安全指導」があげられていますが、ハード面の整備は必須です。歩道の確保が難しい場所の電柱の地中化が急がれますが、電柱を民地に移動を推進し、ハード面からの安全対策を求めました。

脱プラへの取り組み

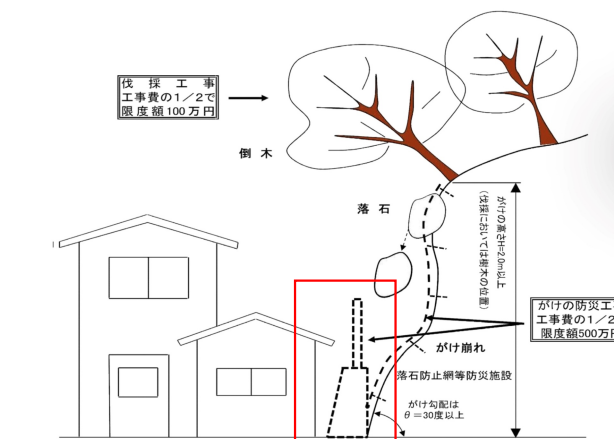
テイクアウト容器ごみを削減するため、再利用できる容器をシェアリングするサービスが鎌倉で始まりました。葉山でも町内小規模事業者でも取り組めるよう補助等を求めました。

「環境貢献をしている事業者を推奨していく仕組み作りを実行したい」との答弁でした。

土砂災害特別警戒区域内への補助制度の設立

近年の水災害の激甚化・頻発化を踏まえ「土砂災害防止法」が見直され、葉山町は更にレッドゾーン(土砂災害警戒特別区域)が増えました。町は災害発生時の被害防止のため「がけ地防災対策工事費補助金交付制度」を創設し、防災工事に繋げるとしています。被災想定家屋の持ち主ががけ地所有者の合意が得られない場合、防災工事に結びつきません。鎌倉市では擁壁等防災施設工事への助成制度があり被災想定宅地内で工事が完了でき町に擁壁への制度拡充を求めました。

また、補助金を町が直接事業者に支払う代理受領制度をつくり、高額となる防災工事の負担軽減につなげるよう提案しました。



鎌倉市の擁壁等防災施設工事補助事業資料

近藤昇一議員の議会質問

議場傍聴席への昇降機を廃止

議場の傍聴席への階段に車椅子や足の不自由な方のための昇降機が「古くて修理部品がない」「過去1度も使われていない」などの理由で廃止されることが明らかになりました。

しかし、このことは「バリアフリー新法」や「神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例」に反するもので、議会予算特別委員会では「代替施設」の検討を要望しました。

部長は検討を約束しましたが、町長は「費用対効果」を理由に消極的でした。

福祉を費用対効果で測るものではないという指摘に対して言い直しましたが、廃止を撤回しませんでした。



葉山・逗子地域に保健所設置を

葉山町には過去、鎌倉保健所支所が設置されていました。しかし法律が改悪され全国的に保健所は半分に減らされ、葉山でも保健所支所が廃止され、葉山町の保健センターとなり、常駐の職員もいない状態が続いています。

コロナ禍で医療の逼迫は深刻で、保健所職員も極限状態に置かれています。この状況を改善するため、県に保健所増設と、葉山・逗子地域にも保健所の復活を求めるよう提案しました。

町長は「要望は可能だが、設置は難しい」との答弁でした。



葉山町保健センター

公共施設に太陽光発電などの自然エネルギー設置を

葉山町の「地球温暖化対策実行計画」は公共施設への太陽光発電設備について「設置の検討」となっていますが、逗子市の同計画では「率先導入を推進」と葉山町は大きく遅れています。

町長の消極的姿勢の表れではないでしょうか。

計画見直しを要求したところ、計画見直しの準備を進めるとの約束をしました。



南郷中体育館の太陽光パネル

長柄地域における諸問題の解決を

地域住民の長年の懸案事項で、何度も議会に取り上げてきた長柄地域の「長柄交差点右折問題」「長柄交差点歩道橋」「長柄交差点横断歩道」「旧逗葉新道横断歩道」「松久保交差点の横断歩道と信号機設置」「松久保交差点から南郷交差点までの歩道設置」「南郷交差点の改良」「南郷交差点歩道橋」などを質問しました。

いずれも神奈川県や県警と引き続き交渉を重ねるという答弁でした。

南郷交差点歩道橋は防風板が撤去され、目隠しにもなっていない状態で、生徒から苦情が届いていることを指摘し早急な対応を求めました。



ロシアはウクライナから即時撤退せよ